

千葉県防災支援ネットワーク検討会議（第2回）

1. 千葉県防災支援ネットワーク検討会議（第2回）の概要

日 時 平成25年5月21日（火）午後2時00分から午後4時00分

場 所 千葉県庁南庁舎9階第3会議室

出席者 千葉県防災支援ネットワーク検討会議構成員

千葉県防災危機管理部長

千葉県防災支援ネットワーク検討ワーキンググループメンバー

2. 議事概要

「救援部隊の集結・活動体制について」「救援物資の集配体制について」「広域災害ボランティアセンターについて」について、事務局から説明の後、各構成員から意見をいただいた。

主な意見は次のとおり

○：構成員 △：事務局

（1）救援部隊の集結・活動体制について

○広域防災拠点は避難所や仮設住宅、復興住宅の建設予定地にはならないということか。

△広域避難所としての指定と重複しているところもあるが、広域防災拠点は被災地から離れた場所に置くため、避難者が集まる場合は、救援部隊の広域防災拠点を別の場所に移すことになる。また、仮設住宅等が建設されることになった場合も調整する。

○警察の拠点は東葛・葛南ゾーンにしかなく、成田・印西ゾーンには消防の拠点しかないのはなぜか。

△警察の既存計画では柏の葉公園に集結した後、直接被災地の活動拠点に向かうこととなっている。成田・印西ゾーンについては、県外からの集結地としては適しているが、被災地から離れているため、自衛隊の活動拠点とは位置付けなかったが、消防の援助隊の県内への進出拠点として配置した。

○直接被災地に入れない場合を想定し、自衛隊、消防の活動スペースに警察の活動スペースも確保していただけるとありがたい。

△自衛隊、消防と同じ場所を警察の活動拠点とすることで、連携できることが考えられる。検討する。

○現場の調整は被災地内の市町村役場等で行われるという理解で良いか。

△その理解で良い。

○どの市町村に行くのかについては、指示がなければ広域防災拠点からどう分散すれば良いか判断できない。

△県の災害対策本部で調整し、決定する。

○イメージとしては、東日本大震災時のJヴィレッジ（福島県）のように拠点に様々な機能を持たせるのではなく、岩手県遠野市と沿岸地の関係のような役割として、被災地から1時間程度の場所に、被災地との往復するための機能を持たせるという整理で良いか。

△良い。

○通信環境はどれくらい期待できるのか。無線LAN等を整備していくのか。

△部隊には無線塔の必要最低限の通信機能はある。無駄になるものは作れないので、どのように通信手段を確保していくのか今後検討していきたい。

(2) 救援物資の集配体制について

○倉庫スペースの検討ということで良いか。

△そのとおり。国や他県からの受け取り、市町村の物資拠点までの搬送を考えている。

○保管倉庫が分散するとうまく機能しない。集中的にストックさせる必要がある。

○倉庫が使えない場合、代替地として小中学校等をイメージする。港、空港からの搬送も考える必要がある。フォークリフト等による作業が可能かどうかなどを踏まえる必要がある。

○県の拠点から先は市町村に取りに来てもらうのか、県が届けるのか。

△県は、市町村が指定する物資拠点までの搬送をトラック協会にお願いし、そこから先の避難所等への搬送は市町村にお願いする。

○県の役割はスペースの確保か。自治体が立ち入る部分を少なくした方が良い。物流は物流の専門家に任せる方が効率が良い。

△発災時の倉庫の空きが不確実である。県の施設を代替施設として確保する必要がある。

○倉庫が偏在しており、空きスペースの確保は課題である。協力企業を増やしていきたい。

(3) 広域災害ボランティアセンターについて

○県災害ボランティアセンターは県庁若しくは県社会福祉協議会に設置するが、海沿いにある県社会福祉協議会は津波による被害を受ける可能性があるため、代替施設の確保について検討が必要である。

○サテライトセンターに具体的に県有の施設か何かを指定しないのか。

△これから相談して検討していく。

○被災地域内に宿営施設を確保できればその方が良いが、それができない場合はサテライトセンターに戻って宿営という話は当然あると思う。

△市町村災害ボランティアセンターが機能し、サテライトセンターを設置する必要がなかったとしても、ボランティアの宿営場所として提供することも考えられる。